様式第1号（第6条関係）

会 議 録

会議の名称	西東京市地域情報化計画策定審議会（第13回）
開催日時	平成15年2月19日（水）午前9時30分から11時30分まで
場 所	西東京市役所田無庁舎庁議室
出席者	(委員) 齋会長、矢内副会長、岡田委員、斎藤委員、花澤委員、土屋委員 (欠席) 小館委員、富永委員 (事務局) 尾崎企画課課長、櫻井情報推進課長、櫻井企画課主査、大和田情報推進課係長、渡部情報推進課主査、株式会社日本総合研究所
議 題	1. 「西東京市地域情報化基本計画（中間答申第二次素案）」について 2. その他
会議資料の名称	(1) 西東京市地域情報化計画策定審議会第13回会議次第 (2) イラスト (3) 西東京市地域情報化基本計画（中間答申 第二次素案）
記録方法	発言者の発言内容ごとの要点記録
会議内容 発言者名	発言内容
事務局	本日第13回目の情報化策定審議会を開催する。小館委員、富永委員は欠席である。また企画部長も別の会議があるため欠席である。
齋会長	基本計画の中間答申の第二次素案ということで、前回の意見を織り込んで作成されていると思うので、順次おいながら審議をお願いしたい。まずは事務局より、全貌をつかむためにも全体を通して、一次素案からの変更点を中心に説明してほしい。
事務局	一次素案への指摘事項と、それに対する第二次案での変更点をまとめた資料を作成したのでそれを使いながら説明したい。 まず、指摘事項の1番目。企画課で進めている基本構想・基本計画のコンセプトと地域情報化のコンセプトやこころポリシティとの関係がわかりにくいのではないか、体系図を含めて説明していく必要があるのではないかという指摘があったが、これについては次のように整理した。 地域情報化基本計画は基本構想・基本計画の基本理念である「やさしさとふれあいの西東京に暮らし、まちを楽しむ」これを実現するための支える計画になるということがまず第一点です。第二点目としてこれを支えるために地域情報化計画のコンセプトとして「新しいかたちのコミュニケーション社会を創出する」というのをかけ、この実現する社会、創出する社会を「こころポリシティ西東京」と表現することで最後整理している。 具体的な記述は、第二次素案の二ページから五ページに該当する。 まず二ページを開くと、市民の中から出た議論の中で4つのまちの将来像、6つの方向性を総合計画として持っている。これに対して二ページの下三行「したがって、6つの方向性に沿ってまちづくりを進めることにより、理想のまちを構築することが可能となり、やさしさとふれあいの西東京市を実現するとともに、まちを楽しむという基本理念を実現することができます。」ということで、まず基本構想・基本計画の整理をここでしている。

次の三ページから基本構想・基本計画を支える計画として地域情報化の役割と基本コンセプトとして最初の二行、「基本構想・基本計画の基本理念、“やさしさとふれあいの西東京に暮らし、まちを楽しむ”を実現するためには、新しいかたちのコミュニケーション社会を創出する必要があります。」ということで、基本理念を実現するための地域情報化側のコンセプトをここに記述した。

四ページは、下にイラストが入る形になっている。その上の本文の三段落目で、創出する社会を「こころポリシティ」という呼び方をすることで整理している。

五ページで体系図として、4つの方向性と基盤整備の5つの組み合わせで三者連携による地域情報化の推進をする。地域情報化の推進をする真ん中の四角の中の「新しいかたちのコミュニケーション社会」ができる。この社会を「こころポリシティ・西東京」という。これができることで、基本構想・基本計画の位置づけになるが、4つの理想のまちが実現し基本理念である「やさしさとふれあいの西東京市に暮らし、まちを楽しむ」が実現できる、ということで体系図の整理もしている。

続いて、主な指摘事項の二番目の、アクションプランや他の計画との関係がわかりにくいという指摘についてである。六ページに体系図を追加している。本文の下にこういった体系図を新たに加えた。三回、四回目の審議会で議論したときに事務局側から提示した資料をもとに作成した。まず、上位計画基本構想・基本計画があり、それぞれ個別計画がある。たとえば福祉・環境であるとかそれぞれの個別計画にあるIT関連の施策を串刺しにして、体系的にまとめ整理したものが地域情報化の基本計画にあたる。更にこの地域情報化基本計画については行財政改革大綱の方からもIT活用した事務事業の効率化、市民サービスの向上ということでの連携が求められている。この二つの計画が個別計画を串刺しする形で連携を図っていくという位置づけとなっている。

続いて指摘事項の三番目として、第三章のアンケート結果等を第一章、第二章に活用することについてである。七ページ以降でアンケート結果等を差し込み、このアンケート結果をもとにした考え方という記述にしている。読んで確認いただきたい。

指摘事項の四番目。IT政策の動向に関して日本から世界に情報を発信するといった国際的な視点や、国や東京都の動きをもう少し記述した方がよいのではないかと指摘があった。これについては七ページ目の最初の六行の記述を追加した。インターネットを通して、情報発信だけではなく、色々な生活スタイルが変わってきているというようなことを追加で記述した。

また、八ページ目上から四行目、中断あたりから東京都においてはということで、電子都庁推進計画の記述を追加している。国の政策については当初から記載されていたのでそのままの記述としている。

指摘事項の五番目。「暮らしの情報化」、「地域経済の情報化」、「行政の情報化」については今までの議論や取組をふまえて戦略的な記述とすべきではないかということであった。十ページ、十一ページで、地域の構成メンバーの連携ということで、まず大きく括って表現した。十一ページの方で「暮らしの情報化」、「地域経済の情報化」、「行政の情報化」とは、ということでこういった方向性で考えて行くべきだというような記述に修正してある。

指摘事項の六番目。西東京市固有の背景についての説明がわかりづら

いとのことだったので、十二ページからになるが、西東京市固有の背景ということで、市民に一体感を醸成するとか、いつでも必要な情報が入手できる仕組みづくりとか、発信できる仕組みづくりとかというようなことがあった。これについては「地域情報化への期待」という括りにして、更に住民のアンケート結果等の中に差し込み、こういった意見が出ていた。この意見をふまえてこの三つの取組が必要なのではないかと、地域情報化に必要なのではないかとという記述に修正している。

指摘事項の七番目。情報化は基盤整備だけではない、また、サーバーに情報を載せるだけでもない。新たな仕組み等ができないかというような指摘があった。これについては十六ページからということで、今までは三つの視点、「暮らしの情報化」、「地域経済の情報化」、「行政の情報化」の中で体系的にとらえ整理していたが、わかりづらい面もあり、施策を束ねるのも苦しい面があったので、新たに四つの方向性を出している。第一点目として、「安心して健やかに暮らせるまち（イキイキ情報化）」ということで、保健・福祉両分野、防災防犯環境などを整備する。

二点目として「楽しく豊かなまち（ワクワク情報化）」ということで、教育文化、スポーツ、地域活動、NPO、ボランティア活動ということで整理している。三点目として「うるおいのある元気なまち（キラキラ情報化）」ということで、産業・企業ITサポートということで括っている。「便利な快適なまち（ラクラク情報化）」ということで交通、リサイクル、電子自治体の構築として整理をしている。この方向性に沿ってそれぞれ施策を考えるということである。更に、具体性にかけるという指摘もあったのでエピソード等もまじえながら取り組みに関する記述をした。

指摘事項の八番目。アプリに関しても同様の指摘があり、戦略性に欠けるあるいは、プライオリティーをつけるべきである、ということで、これについても四つの方向性の中でエピソードをまじえながら具体的に記述するというで修正した。

指摘事項の九番目。ICカードの活用する方向性がわかりづらいとのことだったので、具体的なエピソードを、十六、十七ページであげている。エピソード1でICカードの具体例だとか、二十四、二十五ページの本文の中でも方向性を記載し、更にエピソード6、8でICカードの活用事例を載せた。本来ならもう少し詳しく記載したかったが、現在庁内において住民基本台帳カード等利用検討部会を発足し、検討中であるため、多目的利用の部分をどうするか、場合によっては独自の市民地域カードの発行もどうするかということを検討している最中である。具体的なことが記載できる段階ではないということで容赦してほしい。

指摘事項の十番目。教育の情報化に関する記述が少ないのではないかとということで、これに関しては二十、二十一ページで、「楽しく豊かなまち」という先ほどの方向性の中で、最初の六行でより詳しくした。まず、学校教育を充実させるための仕組みが必要であると考えられる。本市では既に教育情報センターが稼働している。この施設を活用して学校間の授業の交流や教師間の教材の交流を行うことが効果的である。あるいは、生涯学習のための情報提供、eラーニング実践の場として、活用し、地域のIT拠点として位置づけることも必要ではないかとということで、まず本文の方で記載した。更にエピソードの3、5といったところで、具体的な活用事例ということで方向性を示している。

指摘事項の十一番目。多少コソットカフェの説明が必要ではないかと

	<p>ということだったので、これについても具体的な説明とエピソードを入れた。これに関しても同じく二十、二十一ページで記載した。まず、二十ページの本文、下から五行目で説明し、シンポジウムでもこういったコミュニティセンターを、世代を超えた人たちが利用し、そこで交流が生まれて賑わいが出てくるような使い方が必要ではないかといった意見があり、こういった使い方をしてもらう施設としてココットカフェ、つまりインターネットカフェみたいなものが必要ではないかという指摘があったので、それを踏まえてこのような記述にした。更に、二十一ページのエピソード4で具体的にコミュニティセンターにインターネットカフェを設置した事例を挙げている。</p> <p>指摘事項の十二番目。リーディングプロジェクトについては他の施策との連携の中で、第二章の本文に導入した方が良いのではないかということで、こちらの方も二十四ページや二十八、九ページの中で主にエピソードという形で表現した。たとえば二十四ページのエピソード6で、アニメーターの関係のリーディングプロジェクトがあったが、より具体的にわかりやすくした。更には二十八、九ページのエピソード10でコミュニティポータルサイトには、官民が連携した便利な情報源があるということや、エピソード12でITサポーターを含め、一芸名人人材バンクといったような人材バンクの活用事例で表現している。</p> <p>指摘事項の十三番目。全体的に具体性が欠ける、特にアプリの面ということで、十五ページからのエピソードや施策例等で具体的に技術を追加した。</p> <p>指摘事項十四番目。多様なメディアの活用、連携方法の記述に具体性が欠ける、他の項目に比べて表現が薄いのではないかということでしたが、三十九ページ「多様なメディアの特徴を生かした連携」ということで、本文の表現も変え、西東京市のメディアの特徴を活かし四つの方向性をとらえ、連携してやって行くように変更した。更にアンケート結果も挿入し、そういった住民の要望も出ているということで記述した。</p> <p>指摘事項十五番目。地域情報化の戦略会議については、推進体制の中で扱った方が良いということで、四十ページの推進体制に項目として追加している。更に四十ページのところは三つほど出ているが、一つ目は指摘のあった戦略会議の設置。二番目として、電子自治体の構築も含め地域情報化の連携をとりながら推進するため、庁内にCIOを設置する必要がでてくるのではないかと、ということ新たに追加している。第三セクター等の活用については、「昨今の行革の事情で新たに設置するというとらえ方をされてはどうか」という指摘もあったので、たとえば文化・スポーツ振興財団やアスタ西東京市株式会社等、現存する財団や第三セクターを活用するとして、市の出資関係、あるいは市と関係ある財団を上手く活用して、役割を担ってもらうという表現を加えた。</p>
<p>齋会長 事務局</p>	<p>指摘事項の十六番目。カタカナ表記、表現方法の見直しということで、「ヒューマンエラー」、「人が会いたい・豊かになります・」という表現は「わかりにくい」、「唐突ではないか」という指摘も色々あったので、三ページ、三十三ページその他で表現を見直した。</p> <p>その他、指摘以外の箇所も全体的に見直し、手直しをした。</p> <p>指摘箇所はできるだけ拾い上げ、直したつもりであるが、再度指摘、意見が違う、といったようなことがあればお願いしたい。</p>
<p>齋会長 事務局</p>	<p>イラストは？</p> <p>たとえば十八、十九ページにイラストを差し込むということ。資料を</p>
<p>齋会長 事務局</p>	

<p> 囃会長 事務局 囃会長 矢内副会長 事務局 囃会長 事務局 囃会長 事務局 囃会長 岡田委員 囃会長 岡田委員 事務局 囃会長 矢内副会長 囃会長 花澤委員 </p>	<p> 送付する段階でイラストが間に合わなかったので本日配布となったが、ここに挿入するというので、確認いただきたい。四つの方向性をとって、それぞれエピソード等をふまえた形でのイメージするイラストを考えている。 A 3の具体施策例の扱いはどうするのか。 現状では、独自のものもあるがほとんどが他自治体の施策を参考にリスト化している段階であり、調査中である。先ほどの「基本計画・基本構想」でも位置づけしなければならないので企画課と協力して行っている。今月末に判明するので、計画の中に入れたほうがより具体性がでくると事務局では考えているが、その点についてもこの審議会で検討いただきたい。 目次の全体の構成は前回と変わっているのか。 変わっていない。 全体の構成について何かあるか。 A 3の資料が後ろにつくといったイメージか。 はい。 第一章は四つの中身で組み立てられているが、意見はあるか。 四ページのイラスト・カットというのはまだ作成中ということか。 「こころポリシティ」のカットはインパクトがあるので早めに作成して欲しい。 前回「こころポリシティ」が他で用いられていないかどうか、調査したほうが良いとの話だったが、大丈夫であるか。 インターネットで調べたが、大丈夫である。 六ページの「計画の位置づけと期間」の下の図で個別計画というのがあると思うが、最終答申に向かって個別計画をかなり具体的に議論していくことだと思う。個別計画のイメージはA 3の資料との関係もあると思うがどのようなイメージであるか。 個別計画というのはたとえば福祉部門であれば総合福祉計画、教育であれば教育計画、環境分野では環境基本計画といったそれぞれの各部門ごとの計画がある。その中にIT施策が入っていたり、ITに関係するものがかなりある。そういった意味での部門の個別計画ということである。 これは計画の中ではITであるから部門をまたがっているものもあるが、情報化という観点からは個別計画であるという位置づけか。 たとえば、福祉の計画であれば福祉の総合窓口システムというものがあり、住民にどう福祉情報を的確に提供していくかということを検討している。当然、ITの施策としても入ってくるので、その情報を市民ポータルサイトとどう連携をとるのかということで、われわれの方で広い視野でもう一度噛み砕いて、連携の施策を書かなければならないので、各個別計画の部門の中で出ているIT施策を更に、地域情報化の中で電子的な視点で体系化していくということである。 今までの流れに肉づけしたという感じであろう。 五ページの図だが、円柱形で書いたのが方向性で、連携というのは役割。そのあたりがすっきり頭に入らない。方向性をイメージする図形になっていないということだと思う。このあたりもう少し工夫して欲しい。 図による表現を工夫することが必要であるということですね。 基盤の上に役割があり、役割の下が方向性に向かって行くというイメージなのか。 </p>
--	---

事務局	<p>通信基盤と体制が真下にあり、その上にアプリとして四つの方向性、これが土台的に見えてしまうようだが、四つの施策と基盤整備という一つの土台の上に三者の連携がコミュニケーションとして出来てくるということ表現した。</p> <p>地域情報化という一つのまな板のようなところに三つの種類があるということで、基盤と四つのまちの考え方と三者連携の話し、これが同じまな板にのって、地域情報化を進めるというイメージであるといわれれば、そう思えるが。</p> <p>まな板の向きを横に向けるとかし、平面的にすることで、まな板に見えるようにすると良い。</p> <p>若干工夫をすると良い。確かに次元の違うものがのっているので、色を加える等して工夫して欲しい。</p>
花澤委員	<p>六ページの個別計画の関係がよくわからないのだが、仮称で「地域情報化推進計画」というのがあるが、「地域情報化基本計画」に則って「地域情報化推進計画」というのがあり、ここで「地域情報化推進計画」の中にある個々の項目が個別計画の中に織り込まれるのか。横に個別計画があり縦にその個別計画の中で推進すべき情報化については、一括して一つの考えのもとに計画するが、ただ推進するのは個々の部署であるから、個別計画にも織り込んであるという、縦と横の関係なのか。地域情報化推進計画を主に担当し、推進する部署はなく、仮想的なプロジェクトの計画だということか。誰が責任を持ってやっているかということが、明確になっていないような気がする。</p>
甕会長	<p>個別計画は部門の個別計画になるので、部門が単独で解決するものについては、財政的な担保も含めて部門の計画で位置づけし、それぞれの部門の計画が連携をして地域情報化を総合的に進めなければならない場合もある。それらの個別の策も含めて地域情報化の中では捉える。地域情報化の推進計画については、具体的に何を、誰と連携しながら、庁内的にはどの部署が推進役となるか、またいつ予算化して、いつ事業を始めるか等について、推進計画でもう少し書き込みたい。地域情報化の推進計画に書き込まれた内容については、基本的に各個別計画にも入っていく。この個別計画の内容は基本構想・基本計画で上位であるが、実施計画ということで、更に計画を作成し、そちらにも書き込まれるので複雑ではある。</p>
事務局	<p>そうであれば、地域情報化基本計画の配下にこの各個別計画があるというのは誤解を招くと思う。この地域情報化基本計画の下に、地域情報化推進計画があり、それが縦系に個別計画があり、そこに串刺しに方向性を示すというイメージの方がよいのではないか。</p>
甕会長	<p>「計画」という言葉がいくつも重なるのでわかりにくい。よくあるパターンでは「アクションプラン」として個別において、マイルストーンを三カ年、五カ年といった具合にきちんと書きながらやると良い。部門との関係もあるが、「個別計画」と「地域情報化推進計画」が紛らわしいではないか。分野別個別計画なのか、分野別アクションプランなのかわかりづらい。中間答申が出たあとに、リストにあるようなこういう問題が個別計画的な議論としてこの審議会で行われる、といった形になるのか。個別計画の名前がわかりにくいので、もう少し考えてはどうか。</p>
斎藤委員	<p>西東京市が合併して間もないので、福祉にしる教育にしる新しい計画作りに関して、一斉に審議会等を立ち上げて検討している状況なので、なかなか難しい。</p>
土屋委員 花澤委員 甕会長	

事務局	<p>きちんと見える形と、当然市の予算との関係もあるが、最後に評価の問題が出てくると思う。この「個別計画」の部分が骨になってくるので、大骨は「基本計画」だが、小骨になるので重要な位置づけとなる。後に出てくる「戦略会議」での具体的な議論の骨となるので、きちんと進められているかどうか確認し、くれぐれも位置づけをきちんとして欲しい。</p>
囃会長	<p>分野の名前が例示的に出れば良いと思う。是非、整理して欲しい。</p>
事務局	<p>「こころポリシティ」はかたく、若い世代がどう思うか。「ハートがいっぱい西東京市」が良いと思う。若い人たちの感覚が今どうなのか少々心配になる。この計画のキーワードになるのでこれはこれで良いとも思うが、別にPR用のキャッチコピーをつくるならば、これはかたすぎると思う。</p>
囃会長	<p>「こころポリシティ」は、「こころ」と「シティ」はわかるが、「こころポリシティ・西東京」になると意味がわかりにくい。キャッチフレーズとしてはどうなのかという感じがした。</p>
事務局	<p>「ポリ」が良くない。「ポリシー」は違和感がありかたい印象になる。平仮名・カタカナは意外と面白い言葉だという感じがする。</p>
囃会長	<p>当然、役所の方でも色々議論されていると思うが、いかがであるか。先般市長へも概要版を提出したところであるが、面白いといった捉え方をしているようである。</p>
事務局	<p>市の政策はこれから色々議会でも議論していくことになると思うが、その際に一つの情報化の看板として出て行くものとなるので、市の政策との整合性がとれるかどうか、といったそのあたりの印象はいかがか。</p>
囃会長	<p>現在の「基本構想・基本計画」のコンセプトが、「ふれあい」「やすらぎ」といった、「心の面でのまちづくり」を重視した議論がされている。そういった意味ではマッチしている。前回は指摘があったので事務局側でも議論し、「こころポリシティ・西東京」を「こころシティ・西東京」という表現にするのもあるかと考えたが、シンポジウムで提案があったということもあり、これで議論してもらいたい。</p>
事務局	<p>イラストでイメージが入ってくる場合もある。</p>
囃会長	<p>「新しいかたちのコミュニケーション社会」というのが一つのキャッチフレーズというか、「こころポリシティ・西東京」の中身をきちんと表現しているので、イメージとの差もあたりするが、今の段階ではこのままということではいかがか。表現の仕方でも上手くやれば良いと思う。</p>
事務局	<p>第二章についてだが、このあたりが大きな政策というか戦略的なものが含まれているようである。</p>
囃会長	<p>「1. 地域の構成メンバーの連携」について何かあるか。三者連携に関しては既に議論している話なので、特に表現とか何か工夫をすることがあればお願いします。</p>
事務局	<p>では、次の項目「2. 地域情報化への期待」というところで、先ほどの説明では、西東京市らしい表現を今までアンケートやシンポジウムで出てきたものから、織り込んだといったことであったが、もう少し何か他にも西東京市らしいものがあるか。</p>
囃会長	<p>後でパブリックコメントの話も出てくるが、ここで吸収できるものは吸収していくということであるから、特に地域性の問題は地元の方に対するパブリックコメントの中に出てくる可能性があるということを念頭に入れて欲しい。</p>
事務局	<p>十六ページの情報化施策の方向性ということで、イラストをふんだんに織り込んだ形になっている。ここからエピソードという形で例示が出</p>
囃会長	
事務局	
囃会長	

事務局 齋藤委員	てくるが、イラストとエピソードのところのバランスを上手く測っていく必要があると思うが、そういった面から何かあるか。 エピソードの数は年齢構成、性別、職業を見てほしいバランスはとれているのか。
事務局 岡田委員	その点は十分には配慮しているつもりである。
齋会長	十八、九ページを見開きにしてイラストを挿入するようだが、わざわざ見開きにする必要があるのか。寂しいような気がする。もう少し前の部分で謳ってあることを持ち込んでよいのでは。たとえば、「停電しても安心」という表現があるが、田無タワーがあるのになぜ停電なのか、というのは前の文を丹念に読んでいけば確かにそうかと気づくのだが、やはりイラストはイラストとして独立して視覚的にうたえる必要があると思う。そのあたりを賑やかにした方がよい。たとえば公民館で世代間交流といったような新しい方向性が打ち出されていると思うが、イラストでは従来あるような発想のものしか描かれていない。このあたりをどのようにして独自の方法として取り込むか、イラストの方でも反映して欲しい。
齋藤委員	イラストを見開きにするというのは強調しているということだが、見開きにする必要性があるのか、という部分も含めて何かあるか。
齋会長 事務局 齋会長	ITとまちを相当印象づけるという意味で見開きにしたのか。 ITや情報化施策はわかりづらいと庁内的にも指摘される場合が多いので、できるだけ視覚で理解してもらいたいという主旨である。
土屋委員	エピソードは非常に斬新なアイデアで良いと思うが、全体を見るとエピソード4の最後から二行の書き方が他と比べると気になる部分がある。他と合わせるべきだと思う。特になくても十分だとも思うが、カットするとおかしくなるということはあるのか。
齋会長	了解。 エピソード2の上から6行目、「無線によるバックアップシステムを構築している」という部分だが、総務省としては防災無線が基本であり、バックアップではないので、表現をかえて欲しい。
土屋委員	バックアップシステムという問題があるかもしれない。無線と有線が平行にあるということは非常に安心感があるということを手早く表現して欲しい。
齋会長 土屋委員	矢内委員から指摘があったイラストの件だが、かなりインパクトがあるので、できるだけ賑やかで明るくするといったイメージを手早く出しながらやって欲しい。
齋会長	イラストの三枚目「うるおいのある元気なまち」で桃の店はイメージは良いのだが、「げんさん」は目立つ。 総合計画でもイラストを使うのか。 できるだけ活用する方向でやっている。 審議会の答申でイラストを扱う時は気配りをしなければならない。 上手く配慮して欲しい。
土屋委員 齋会長 齋藤委員	その次「4. 計画策定にあたっての基本姿勢」は、ニーズを反映、セキュリティ、情報保護、情報格差、デバイド、地域人材、行財政改革、費用対効果だが、従来留意事項で扱われたことをここで真正面から扱って、基本姿勢という位置づけである。 三十四ページ、「情報格差に配慮した人にやさしい地域情報化」で障害がある人への配慮というのを加えて欲しい。聴覚、視覚に障害がある人へもきちんと情報が伝わるような配慮をしていくといったことらを織り

花澤委員	<p>込んで欲しい。</p> <p>この中のどこかに言葉を入れるということか。どのあたりが効果的か事務局で考えて欲しい。きちんと聴覚障害や視覚障害といった言葉を用いた方が良いということか。</p>
甕会長	<p>たとえば、機器を設置する場合や市民に情報を流すときに配慮するといったことである。</p>
齋藤委員 甕会長	<p>どこか効果的に文章を加えて欲しい。</p> <p>世代間のコミュニケ - ションのバリアフリー化を進めるということがあったと思う。もちろん世代に差がある方とのコミュニケーションも大事だが、ここにも障害のある方とのコミュニケーションも加えられれば良いと思う。地域のコミュニティセンターや障害者施設にもインターネットカフェを併設するといったことも考えられ、また違ったコミュニケーションが生まれると思うので配慮願いたい。</p>
事務局 甕会長	<p>三十四ページの「情報格差に配慮した人にやさしい地域情報化」の中で扱うということで、健常者と障害者のコミュニケーションをより充実するという主旨か。</p>
事務局	<p>はい。</p> <p>事務局でこれらを含めて上手く表現して欲しい。</p> <p>三十三ページでヒューマンエラーを「人的過失」と置き換えたようだが、下に「不注意」といった表現もある。「ほとんどが」とくると「過失」と表現した方が良いのか、他のいいまわしはないのか。非常にデリケートな部分であり、関心も多い部分であるので難しいところである。</p>
齋藤委員	<p>セキュリティで問題なのは不注意の過失ではなく、故意の過失であり、故意の漏洩である。デジタル化されているので容易に大量の情報が獲得できてしまうところだから、確かに書き方に注意が必要である。</p> <p>「セキュリティ事故のほとんどは人的過失であるため」はカットしてはどうか。</p>
事務局	<p>その表現はなくても良いかもしれない。意味は通じる。</p> <p>カットした方が誤解をまねかないだろうから、カットすることとする。</p>
齋藤委員	<p>三十二ページのところがイラストでアンケート関係がないが、他の四つはアンケートがエビデンスとして入っている。何か適当なものがなかったということか。</p> <p>使えそうなデータがなかったのだが、もう一度精査する。</p> <p>あると締まるので、何か適当なものを探して入れて欲しい。</p>
甕会長	<p>三十八ページ「5. 情報通信基盤の考え方」について、基盤というと大げさに考えるケースと、個別具体的なものを出し、後ろの方に基盤の柔らかい考え方を出すといった組み合わせだが、コミュニティポータルサイトと公共端末とコミュニティICカードというのはここで、強調しているようだが、先ほどの個別計画の中でも相当力を入れていくということか。</p>
事務局	<p>ポータルサイトとICカードについては、シンポジウムにおいても市民ICカードや市民のポータルサイトといったものがあったので、それをイメージした。公共端末についてはデバイドの関係もあるので連携で書いた。</p> <p>住基カードでは、住民負担が一枚500円だが、公費負担が1,000円位かかり、合計1,500円位になると聞いている。コミュニティICカードを発行する時どうするのかということである。次の文章は「すべきであると考えます。」は、状況によっては住基カードに含めるというこ</p>

<p>齋会長</p>	<p>ともありえる。住基カードは希望なので、欲しくない人には発行しないというものであるのか。</p> <p>市としては、住基情報を持っていない市民、たとえば外国人、在学の方もいるので、別のしかけも考えなければならない。</p>
<p>齋委員</p>	<p>今言っているのは財源の裏づけの面だが、住基カードですら1,000円の持ち出しがあり、全部が市町村の財源から出て行くわけではないので、それに上乗せとしてコミュニティICカードを出すとすると西東京市の固有財源から出すということになるのか。何かスポンサーでもあるのか。</p>
<p>齋会長</p>	<p>地域通貨のことで表現が並列になっているところがあったが、民間サービスに関してとなると、地域通貨とかいろいろなアイデアが出てくると思う。それを織り込んだ表現でコミュニティICカードになっていると思うが、夢のある話と現実の予算の話が混在している。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在、既存の単純な磁気カード等は色々なサービスごとに発行されているので、何らかの形で統合したいと考えている。それとICカードをどう役立てていくか。民のサービスをのせたほうが住民にとっては利便性が高いのではないかとすることがある。住基カードでは民との連携はとれないので庁内で悩んでいるところである。この件に関して民間の金融機関から提案があり、地域に根ざしたICカード活用の研究会を発足する話もあるが、なかなか進展しない。行政がコミュニティカードを発行して、それに地域の民間系のアプリケーションを搭載するのが良いのか。あるいは、民間系で既に先行しているようなところに行政が関われる範囲で、公共設備や図書館カードのような行政系のアプリケーションをのせていくのが良いのか。両立するような形で進行するのが良いのか。現時点では方向性は未定である。行政としても民間系の提案にも目を向け、流れを見極めつつ検討する必要があるのではないかと考えている。</p>
<p>齋会長</p>	<p>動きは色々あるのは確かで、携帯電話などでもそういった動きが出てきている。検討していくということは価値があるので、色々なところの事例を採り入れながら検討し、商店街の方とも相談すればなかなか良い案が出てくるかもしれない。</p>
<p>事務局</p>	<p>「すべきであると考えます」という表現は後に縛りにならないかと危惧する。他の二つについてはそういう表現はしていないので、検討して欲しい。「適切であると考えます」などはいかがか。</p>
<p>花澤委員</p>	<p>「すべき」はかたいので、もう少し柔らかくした方が良い。「民間サービスを利用できることを考慮していく」といったような、柔らかい表現にするのが良い。次に、「多様なメディアの特徴を活かした連携」の部分はパンチがないが。</p>
<p>事務局</p>	<p>今、イントラネットに関しては順調であるか。拡張する考えはあるのか。</p>
<p>花澤委員</p>	<p>イントラネットは順調である。今のところサービス分野に関するボリュームが足りないので今後増やす予定である。</p>
<p>事務局</p>	<p>では、「6. 推進体制と方向性」についてだが、具体的に三つの提案を出しているが、かなり迫力がある。戦略会議というのは、パーマナント組織になるので計画を見直したり、フォローアップや評価もするといったイメージで良いのか。</p>
<p>花澤委員</p>	<p>事務局の想定としては、地域情報化の計画とはいっても、民の方、市民の方に担ってもらう部分には、期待を込めた書き方が行政側ではできないので、戦略会議に民間からの参加も含め、戦略プランとして民側</p>

甕会長	が担えるものはより具体的に検討してもらいたいという意味での位置づけを考えている。
事務局	市民も参加してということか。
甕会長	はい、市内の商工会だとか通信事業者と連携を図らなければいけないような方々との連携である。
事務局	では、市民参加という言葉は明記しないと庁内組織と勘違いする。ＣＩＯもどういった人がやるのか。同じように明確にした方がよい。 ＣＩＯは庁内の人間である。
甕会長	表現の仕方としては一人を明確にして、責任の所在も明確にして進めるという言い方であるのか。
花澤委員	はい。他の個別計画との連携が必要となってくるので、それを計画執行責任者ということで束るプロデューサー的な役割を担う役割である。できればＣＩＯになった者が地域情報化戦略会議に行政の代表者として参加し、地域の団体の方と議論し戦略的なところまで行きたい。 今の指摘の部分をかぎ括弧の戦略会議の頭の部分に、「広く各分野の有識者にも参画いただく」とか明記すると良い。知っている限りでは横須賀にあると思う。ＣＩＯは斬新的な言葉である。市長が任命するハイランクの職員といったイメージであるか。
甕会長	その通りである。まだ調整はしていないが、部長調整の段階では助役あたりをといた話がでていた。当初から助役がセキュリティ統括者でもある。
事務局	庁内の役職とすると、ＣＩＯ自体を検討する必要がある話ではないのではないか。責任を明確にするということは言い切ると良いと思う。誰がどういう形でやるのかが検討を要する部分である。
甕会長	審議会の中問答申なので、ずばり明確に記するという方法もある。検討ではなく必要がある。
事務局	庁内には地域情報化推進本部があり、その本部長を助役がやっている。後付でこういったものが意味合いとして可能かということである。
甕会長	外に連携を求める第三セクター等の活用はアウトソーシングをどんどんやっていこうという意味か。
事務局	ポータルサイトでいえば官民の情報を一体的に扱うサイトは行政直営では難しい。半官半民のところには地域の情報が集約される。あるいはＩＣカードについても企画課長から話が出たが、発行自体可能性があるのであるのではないか。アスタ西東京についても検討中だが商店街のポイントカードもやっているの、そういった連携が格になってくれるのではないかと考えている。
甕会長	中間答申の段階でこのように具体的なことを出すのは、次期の予算要求のタイミングもあり意味があってよいことであると思う。「生活圏を視野にいれた広域対応」は、多摩地域とか広域を生活圏の広がりとして入れたほうがよいということである。
事務局	その他に全体を通して何かあるか。
甕会長	全体で二章構成であるが、二章の３．が十六ページ近くなっているのに、二章の配下にありバランスが悪いということと、地域情報化計画を進めるためにという第二章の中に上手く納まっていないと思う。三章仕立てにして、「地域情報化計画の目指すもの」といったような柔らかいタイトルにするのが良い。そのために、二章が三章になるということではないか。
事務局	ページ数のバランスもよくなると思う。
甕会長	今の観点からいくと二章の２．と３．のイメージをつくらうという傾

<p>事務局 鶴会長 事務局 鶴会長</p>	<p>向がある。確かにここの二つを前にもってきて、一章はそのまま、二章の2, 3を抜き出し、イメージ作りをやりそれから、推進方策の1, 4, 5, 6を三章にした方がすっきりするかもしれない。</p> <p>体系図の中でいち早く四つの方向性を示しているの、ここは早く説明したほうが良いかもしれない。</p> <p>カラーのイラストをまとめて出したほうがよいかもしれない。三章立てとする。審議会としても、今出された意見も全部織り込んで次の第三次案を作成する。三月は議会もあり設定しづらいので、本日の審議を事務局で整理し、メールで確認し、最終意見を出し、そこで閉め、後は会長に一任してもらい、中間答申の手続きに入ることとしたい。</p> <p>西東京市では市民参加条例があるので、手続きを経ないと計画作りができない。再度パブリックコメントという形で進めたい。四月中旬に市報で概要版、ホームページと各公共施設に伝文の形で用意し、住民の意見をもらい、それを織り込んで八月の最終答申計画作りと考えている。他市の例ではお金のかけ方やインフラの部分で意見がでていようである。</p> <p>手続き的には、本日のものもメールで確認し、最終確認し、意見として織り込んで中間答申の最終案になる。パブリックコメントをこの段階でかけるのか、ここでもうこういった意見が出てきたので手続きは良いということになるのか。</p> <p>中間答申は中間のまとめとして最終案に向けて何か意見はないかということで、パブリックコメントをやる。</p> <p>それが先ほどの市報とホームページか。</p> <p>はい、あと、公共施設に紙ベースで置いて見てもらう。</p> <p>四月中旬から一カ月程度行われる見通しで、五月に中間答申となるのか。</p> <p>五月にこの審議会でパブリックコメントについて議論し、最終答申を八月と考えている。</p> <p>中間答申として、市長に提出するようなものはあるのか。審議会としてパブリックコメントの前に中間答申を市長に提出し、それを市としてパブリックコメントとして取り上げるということか。</p> <p>その通りである。</p> <p>パブリックコメントの内容が出てきたら審議会を再開して、最終答申に向かって審議するといったことで、次の審議会は五月に再開する。</p>
---------------------------------------	--